

今年の新卒社員、“生き生き”してますか

2023年10月16日付・日経新聞に『ゆるブラック浮上、働き方改革の罨』という記事が掲載されました。

それによると、入社早々の4月に転職サービスに登録する新社会人は、2011年から23年までに、なんと約30倍になったそうです（登録者全体は約6倍）。

また、「別の会社や部署で通用しなくなる」と感じる人は50%弱、「友人・知人と比べて、差をつけられている」ように感じる人は40%弱に達するそうです（リクルートワークス研調査）。

さて、今年の新卒社員も入社半年が経ちました。皆様の会社では、入社時より“生き生き”しているでしょうか。

先日、春に研修を担当した新卒社員の方々と、数ヶ月ぶりにお目にかかりました。皆様、非常に元気で、まさに“生き生き”していました。また「すごく成長した」とも強く感じました。受け入れ・定着・戦力化に成功していると言えます。

本来は、こうあるべきでしょう。もし、そうになっていなければ、明らかに危険信号です。苦勞して採用した新卒社員が1、2年の間に退職しては、元も子もありません。

では、どうしたらよいのでしょうか。前述の生き生き新卒社員に話を聞くと、以下のような事柄が出てきました。

1. 職場の雰囲気が良い（明るい、活気ある、話しやすい）
2. 仕事の全体像がつかめた
3. いろいろな業務を任せてもらえた
4. 補助的役割ではなく、自分が主となる業務を行わせてくれた
5. ただし、そのための教育はきちんと行ってくれる
6. 早い段階で“成功体験”を積むことができた
7. 基本的なことを疎かにした場合は、明確に注意される
8. 先輩達の仕事ぶりが素晴らしい（新卒社員が「すごい」と感じる）
9. 先輩達のやり方を真似したら、上手くいった
10. 先輩達のオン・オフの切り替えが見事である
11. 自分の力量を客観的に理解できた（思っていたよりできなかった）
12. 質問すれば、誰でも親切に教えてくれる
13. 配属後も、同期同士でのコミュニケーションを取っている

このように見ると、決して“緩い”だけではありません。お客様への報告を疎かにした際には、叱られたこともあるそうです。

弊社では「新入社員フォロー研修」を行っております。

是非、ご興味ある方は、ご連絡を下さい。



> お問い合わせはこちら